

令和5年度JR線・智頭線中部地区利用促進協議会

総会 会議録（要旨）

（日時）令和5年7月7日（金）10時～11時33分

（場所）エキパル倉吉1階多目的ホール

（参加）会員20名（うち代理6名）、欠席会員6名、随行者1名、オブザーバー3名、事務局3名

**= 次第 =**

・開 会

・会長あいさつ

1 現況報告

（1）西日本旅客鉄道(株)米子支社倉吉駅

（2）智頭急行(株)

2 議事

（1）令和4年度事業報告及び収支決算について【承認】

（2）令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）について【承認】

（3）令和5年度特別会費事業計画（案）及び収支予算（案）について【承認】

（4）役員改選について【承認】

3 その他

4 閉 会

《主な意見等》

・開 会

・会長あいさつ

（倉吉市：広田市長）

- 日頃から皆様には、それぞれの立場でJR線、智頭線の利用促進に御協力、御支援をいただいていることに感謝申し上げたい。
- また、本日は、智頭急行株式会社から新しく社長になられた西尾社長にも御出席いただき、感謝申し上げます。
- コロナの影響も薄れてきて、人の交流も活発になってきたと感じている。5月の連休も赤瓦は、コロナ前の令和元年の7割程度まで戻ってきた感じである。
- 昨日、真庭市の太田市長とお話したところ、蒜山はコロナ前の状況に回復したとおっしゃっていた。私共もしっかり対応して交流人口の増加等に努力していかなければならない。
- 令和7年には県立美術館もでき、それに向けて、皆さんの御協力をいただきながら誘客に努めているところ。また、令和7年は関西万博の年でもある。智頭急行1本で県中部まで来ていただけることから、利用促進にしっかり努めていきたいと思っている。
- 本日は、昨年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算案の御承認をいただき、令和7年に向けた準備に着手をしていかなければいけない時期に来ており、皆様の御協力をいただ

きたい。そのための良い総会になればと思う。

## 1 現況報告

### (1) 西日本旅客鉄道(株)米子支社倉吉駅

(JR 西日本(株)：松本駅長)

- 中国統括本部という名称になり、その所属でこれからトライしていくことなるので御承知をいただきたい。
- 概況としては、組織としては、泊駅から赤碕駅までの8駅、32.4キロを管理している。有人駅は、鳥取、鳥取大学前、倉吉、伯耆大山、米子の5駅。由良駅は、今年の3月をもって無人化となった。
- 今年12月で倉吉駅の開業120周年を迎える。10月15日のばえん祭で市制70周年と併せて、駅の120周年を入れて盛大に取り組んでいく。イベント案としては、JRのブースをはじめ、駅の歴史が分かる写真展、駅中のインスタやフォトコンテストも考えている。観光列車も持ってきて、駅で公開展示も考えたい。駅のディスプレイ、駅前の電光掲示板を使って、皆様に周知していきたい。
- 列車の発着本数は、昨年、減便の対応をした。非常に心苦しいが、今年度も減便という形になっている。
- 現在の販売体制は、みどりの券売機プラスとみどりの券売機、普通の自動券売機の3台。株主優待券は、みどりの券売機プラスに加え、みどりの券売機でもQRコードで操作可能になった。また、株主優待券をインターネット予約で購入できることとなった。
- イベント・訓練としては、鳥取短期・看護大学生との七夕の飾り付け、ばえん祭、駅構内のあいさつ運動、消防訓練、不審者対応訓練、倉吉農業高等学校のプランター設置を行ってきた。
- ゴールデンウィークの利用状況としては、今年度が3万8千人くらいで前年比127%、2018年度のコロナ前と比較すると80%。スーパーはくとは、前年度比が136%で、コロナ前の2018年度比では94%まで回復した。インバウンドの観光客の姿も多く見られるようになった。
- 近距離の利用状況は、お出かけが少ない様子で、前年度比は113%であるが、コロナ前と比較すると78%で、主要駅の中では一番低い数字になっている。
- WESTERのアプリが非常に便利になっている。買い物や列車の利用でポイントが付いたり、ウェブ早特のネット予約もできるので、御利用をいただきたい。
- あめつちも5周年を迎えることができた。コロナで利用が低迷していたが、今は外国人グループのお客様や団体のお客様などが戻ってきた。車内には、地元の工芸品、食材、スイーツを用意している。倉吉餅も2号車の乗降口に付けており、一度、乗車してみたい。

### (2) 智頭急行(株)

(智頭急行(株)：西尾社長)

- 営業の概況としては、昨年度はコロナ前と比べて7割弱で、3期続けての赤字になっている。今年のゴールデンウィークくらいのスーパーはくとの乗車率になってくれば、間違いなく黒字化できる。なお、5月全体ではコロナ前の8割ぐらい。

- 公共交通の利用促進としては、『公共交通にのら Night』の広報参加や県を中心に取り組んでいる『公共交通乗って ecoh! 県民運動』等に参加している。その他にも、FM放送のコマーシャルや社員による番組出演でPRを実施している。列車内でも2カ国語、4カ国語で案内している。企画きっぷとしては『かにカニ日帰りエクスプレス』等の各種きっぷを販売している。
- 普通列車の利用促進としては、「あまつぼし」を活用した団体列車の運行を行った。なお、当社主催のイベント列車は運行していない。
- 乗客確保の取組としては、鉄印帳の販売等を行っている。
- 中部地域の観光情報発信としては、スーパーはくとの車内でPR動画の放映等を行っている。
- 新型コロナウイルスへの対応としては、鉄道事業者のガイドラインに沿って5月7日まで実施した。5月8日に5類に移行したので、現在、ガイドラインに沿った取組を終了したが、注意喚起や体調管理、手洗い消毒の徹底を続けている。なお、県の認証店制度は、5類への移行をもって感染対策宣言店に移行させていただいた。
- 本協議会へのお願いとしては、23年度は、スーパーはくと6号及び9号が臨時列車の扱いになる。金土日しか運転していない形となるので、これを早く元に戻すためにも一緒に取り組んでいきたいと思っている。中部地区と連携をした商品造成やイベントの実施等が大変重要だと思うので、ぜひ御協力をお願いしたい。
- 今後の取組としては、県の補助金をいただいて、スーパーはくとにラッピングをする予定。1編成・6両のラッピングを進めようと、今、作業に取り組んでいるところ。正式には発表していないが、今年12月、年内には走らせようという予定。内装外装を検討中だが、フルラッピングは難しい状況。スーパーはくとの沿線自治体の景観条例等の制約の関係。しかし、できる限り外装や乗って写真を撮っていただけるような内装づくりなど取り組んでいきたい。
- 6月6日に県とJR西日本で連携会議が開かれ、そこで平井知事が支社長に対し、はくとの増発を要請された。現在の全便京都を、例えば大阪まで戻らせることで往復数を増やすなど、JRの内部で検討中と聞いている。これが決まれば、当社としても責任を果たせるよう、運営者とか車掌とかなど運行体制をしっかりと取り組んでいきたい。何とか関西のお客さんをたくさん引っ張って来られるよう、しっかりと頑張りたいと思うので、一層の協力をお願いしたい。

(倉吉市議会：福谷議長)

- 中部地域の観光情報発信ということで、例えば、くららという地元情報誌を車内に設置するとかできないか。これから大阪・関西万博もあるし、中部地区に來訪される方も増えてくると思うので、ぜひ地元情報誌を車内に置いていただきたいので、御検討をお願いしたい。」

(智頭急行(株)：西尾社長)

- これまでは、コロナ対策の一環で社内に人が手にするような物は設置してこなかった。どういう形で車内に設置できるのかを検討してみたい。

## 2 議事

### (1) 令和4年度事業報告及び収支決算について

(事務局：担当者)

- 昨年度の事業報告として、昨年6月と今年3月に幹事会と総会の方をオンラインや書面形式で開催した。その間、昨年11月には、本協議会として要望活動を実施し、今年3月にかけて回答をいただいた。
- 智頭急行に対する要望としては、昨年11月24日に「より利便性の高い運行の実現等について」として、①スーパーはくとの快適な車内環境の整備、②新たな利用促進に向けた協働による検討、③スーパーはくとを利用した来客誘致に向け、協働による企画提案を要望した。
- JR西日本に対しては、同じく11月28日に「より利便性の高い運行の実現等について」として、①スーパーはくとの倉吉駅乗り入れの維持と観光客や住民にわかりやすい運行・駅構内の案内の継続、②ダイヤ改正の際の日常利用、ビジネス事業、学校利用を配慮した多角的な視点での検討、③他分野との連携・意見交換をする機会の設置と利用者の利便性の確保による乗って守っていく取組の連携促進、④IT化の推進に伴うIT弱者を意識した仕組みづくりやサポート体制の強化を要望した。
- これに対し、JR西日本からの口頭回答は、①ホームページや係員による案内放送の対応を実施、②改正前の利用実態調査等による把握や改正後のビジネスや観光の視点に立ったダイヤ改正の検討を実施、③2025年の大阪・関西万博を見据えて、今年度中に関西MaaSやTabiwaのリリースを予定、④駅へのサポート要員の配置による案内の実施に努めているとの回答であった。
- 智頭急行の書面回答は、①具体的な要望がある場合の意見等の提出、②③本協議会で意見交換や検討の機会を設けた場合の積極的な参加を約束していただいた。
- 智頭急行から本協議会へのお願い事項として、①国や県などの沿線自治体と協調した実証運行への支援、②スーパーはくとの利用促進への支援、公共交通に乗ってecoh! 県民運動の一層の強化や令和7年の県立美術館、大阪・関西万博を捉えた新たな利用促進の環境整備の2点であった。
- この要望に対し、今年3月に本協議会として、実証運行の協調支援や新たな利用促進に向けた環境整備を関係自治体と一緒に検討を進めていく旨の回答を提出した。
- 本協議会の特別会費事業として、昨年度、令和3年度の繰り越し財源を活用しながら、ゴールデンウィークと夏休みの2回にわたり、特産品の当たるキャンペーンを実施した。
- 一般会費の決算については、全ての会員から予定通りの会費をいただき、例年通りの要望活動等の旅費や、会議の開催費等に使用させていただくことができた。その結果、収入合計324,406円に対し、支出合計118,883円、差引残額205,523円を次年度に繰り越した。
- 特別会費の決算として、各自治体から合計100万円の会費をいただき、繰り越しと合わせてキャンペーンの財源として使用させていただいた。その結果、収入合計2,627,520円に対し、2回のキャンペーン分の費用として、支出合計1,901,510円、差引残額726,010円を次年度に繰り越した。

(はわい温泉・東郷温泉旅館組合：中島組合長)

- 昨日、私と馬野会長で監査を実施した。本協議会の令和4年度会計決算、一般会費並びに特

別会費において、関係帳簿の書類、預金通帳等に基づき監査を行った結果、全て適正に処理されていることを認めた。

《第1号議案 承認》

(2) 令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

(3) 令和5年度特別会費事業計画(案)及び収支予算(案)について

(鳥取県地域づくり推進部：盛田部長)

- 昨年2月10日、JR西日本山陰支社と19市町村、県の連携協定を締結した。内容としては、観光列車を通じた観光振興及び交流人口の拡大、駅を活用したまちづくり、日常利用の促進等を盛り込んだ。
- 今年6月6日、県とJR山陰支社の連携会議において、知事から大阪関西万博の開催を見据えた関西圏からの誘客促進及び輸送力強化等による利便性向上を要請した。車両数等の関係で京都発着が減ることになるが、倉吉の発着は現状維持をお願いをしている。智頭急行の経営に配慮した上で、大阪・関西万博を見据えて増便や新幹線の接続改善を実現可能なところで取り組んでほしいとお願いした。
- JR山陰支社長からは、私のイメージでは前向きに検討していただける回答であったと理解している。また、2年前のダイヤ改正で減便になった便を含め、引き続き復便を要望している。生活利用の充実を図ることができるようにお願いしていく。そのためにも皆さんに利用していただく、使っていただくことが大前提になってくるので、利用促進の取り組みも進めていきたい。

(事務局：担当者)

- 県からの情報提供も踏まえて、今年度の事業案を組み立てていく。
- 令和5年度事業計画としては、JR線・智頭線の利用促進を図ることを目的に、従来の事業を中心に要望活動に取り組んでいく。
- 広報活動と利用促進・誘客活動については、例年通り実施していく。特に『公共交通に乗ってecoh!県民運動』に積極的に参画し、通勤や出張時等の公共交通機関利用促進を図っていく。
- 要望活動については、令和2年から約3年間、コロナの影響で公共交通の利用者が急激に減少し、公共交通の維持存続に大きな影響があったが、感染症の分類見直し等により、徐々にコロナ禍前の状況に回復しつつある。この機をとらえて、令和7年の大阪関西万博をしっかりと見据えながら、インバウンド需要を取り込むための環境整備を関係機関団体と連携して進めていく。さらに、鳥取県中部地区のこれまでやこれからの動きなどについても、スーパーはくとの移動の快適性や利便性の情報提供と一緒に併せて積極的な情報発信に取り組んでいきたいと入れさせていただいた。
- JR線・智頭線の快適性・利便性・集客性の高い運行が実現されるように要望活動を行っていく。
- 加えて、昨年度の回答を踏まえ、今年度からJR西日本と智頭急行との定期的な意見交換の場を設けていけるように努めていく。
- 令和5年度の要望案を記載しているが、県とJR西日本の今後の情勢を注視しながら、11

月頃の要望活動に向けて要望内容を精査していく。

- 基本的なスタンス・考え方としては、J R西日本に対しては、昨年度の要望を継続しつつ、現在の便数の維持、デジタル化の進展に伴う公共交通を基軸とした地域経済の活性化のための中部地区の鉄道駅へのキャッシュレス化の導入推進を要望していききたい。
- 智頭急行に対しては、昨年度の要望を継続しつつ、今年度から定期的な協議の場を持ち、新たな利用促進に向けた検討を共に行っていくこと、2025年を見据え、J R発行の企画切符への参画等のサービス向上に努めていただきたい点を要望していききたい。
- 智頭急行とJ Rとの定期的な協議の場については、まずは事務レベル、この協議会の幹事レベルで、どういう取り組みが必要なのか、どうすれば1便でも多く倉吉発着になるのかというところを詰めていききたい。
- 収支予算案としては、一般会費は、例年と同規模で予算を組ませていただいた。
- 特別会費の事業計画案、収支予算案としては、スーパーはくとの旅行商品に、ここいこ map 登録施設で利用できる1000円分の電子クーポンを付与する事業を実施していききたい。

(鳥取中部観光推進機構：蔵求事務局長)

- 当機構で受託して「ここいこサマーキャンペーン」を実施していく。7月14日金曜日からスタート。J R出資の旅行会社である日本旅行の企画を使い、旅行商品を造成していく。実際には3月の幹事会で了承を得た企画で9月18日まで実施していく。ここいこ map 登録施設を対象、現時点で42施設で利用できる。ぜひとも60か70くらいの施設で実施できるように準備を進めていききたい。企画内容については、エイキュウリンクスというシステムでスーパーはくとを利用されたお客様1,000組にクーポンを付与し、登録施設で利用してもらう。ウェブ広告やメールマガジンで情報発信を継続して行いながら利用促進を進めていききたい。

(事務局：担当者)

- 補足として、前段の幹事会で協議をした段階では、対象組数800組であったが、対象組数を増やしてスーパーはくとの利用促進に努めたいということで1,000組とさせていただいた。サマーキャンペーンの部分で、1,000組が消費できなかった場合、年末年始なども見据えて、このキャンペーンを継続しながら中部に誘客を図っていくということで、反転攻勢をかけるべく積極的な計画案とさせていただいた。
- 規模を大きくするが、予算的には変更なく、各自治体から会費として合計100万円をいただき、繰越金と併せて1,706,010円の事業費で事業を実施していく考えである。

(三朝町：松浦町長)

- 1,000組の規模としているが、サマーキャンペーンの期間中で消費できそうか。何年か前に同じようなキャンペーンがあり、結局、実施しても集まらなくて予算を組み替えたということがあった。せっかくここいこ map を整備したので実現して欲しいと思う。備考欄に事業期間の延長のことが書いてあったので、少し弱気なキャンペーンのように感じた。利用施設を増やし、冬場でも活用していただけるような店舗を増やしてしっかりと取り組んでもらいたい。

(鳥取中部観光推進機構：蔵求事務局長)

- 難しい数字だと思うが、実際に需要がかなり戻ってきてる。ゴールデンウィークの状況から

見てもスーパーはくとの利用者が増えている。そこで、日本旅行が設定した 800 組の目標値を更に超える 1,000 組を設定して、お客様へのインパクトや意気込み、また、1,000 組を超えない場合については、秋も継続して実施していきたいと考えている。目標値としてしっかりと取り組んでいく。

(はわい温泉・東郷温泉旅館組合：中島組合長)

- 鳥取中部観光推進機構の会長としても、日本旅行に働きかけをして、昨年一昨年のキャンペーンより実績を上げるように進めていく。
- 要望活動についての事務局案のところで連絡会議のようなものを作っていく話があったが、連絡会議の中に民間メンバーも入れていただきたい。
- 今後、人口減少が進んでいく中で生活利用だけでは、路線の維持や便数の確保が難しくなるので、大阪を拠点として周辺から倉吉に来ていただくことが非常に重要となってくる。民間観光業者等も入って一緒になって取り組んでいきたい。
- 県の要望では十時台のスーパーはくとを戻すという継続要望の話があったが、正直、個人的には十時台はあまり必要ないように考えている。それであれば、新しい週末限定の臨時便やダイヤの改善を図るなど、今までにない利用形態の議論をしていただきたい。
- インバウンドの観光客が増え、荷物の預かり体制に課題を感じている。実際、結構な人数がキャリーケースを引いて街中を歩いている。観光客の満足度を上げるためにも、駅構内での荷物の預かりサービスの導入を検討してもらいたい。

(琴浦町；福本町長)

- 琴浦町は、不便なところで、スーパーはくとが倉吉に到着しても、乗り換え乗り換えで時間のロスが大きく、利用者が減ってきている。そこで、少しでも利用促進を図るために利用者目線で駅舎の環境改善を検討しているが、アスベスト等の問題でそれも難しく、本当に悩みが大きい。本協議会の議論の中心が増便とかラッピングとか、そういう誘客の取組で進んでいるが、駅舎の環境改善が難しいとか、琴浦町へのアクセスも倉吉からバスで輸送するという考えであるならば、ますます琴浦町の3つの駅を利用しなくなるのではと危惧している。本当の意味の利便性って考えたときに、ぜひ、中部の一番西の端という部分も配慮していただいて要望内容を練っていただきたい。

(北栄町；手嶋町長)

- スーパーはくとの件で、今回、ラッピングが入る、また、令和9年を目標にふるさと館の再生も考えているとことで、ぜひ、JR由良駅で停車していただき、そこから琴浦に行ったりできると考えている。中部全体を総合的に見ると、定期的に由良駅で発着できればいいと思っている。要望、希望として、会員の力を借りながら由良駅でのスーパーはくとの発着が可能になるように取り組んでほしい。

(鳥取中部観光推進機構：蔵求事務局長)

当機構が受託運営している案内所で荷物の預かりを行っているが、倉吉駅には、実際、ロッカーが2階の交流ホールの入り口にしかなく、そこも大きい荷物を収納できるロッカーが数個しかない状況。案内所や長生堂でも受けているが、限界が近づいている。インバウンドはかなり大きい鞆で来られるので、その辺りの環境整備を考えていかないと、現時点ではお客様を受け入れる体制ではないというのが正直なところだと感じている。

《第2号・第3号議案 承認》

(4) 役員改選について

(事務局：担当者)

- 役員改選については、本協議会の規約で1年交代となっているが、ここ数年、コロナで十分な活動をお願いすることができていなかった。これから2025年に向けて約2年間、とても重要な時期を迎えるところ。ぜひ、現在の役員の皆様に引き続き御協力、お力添えをいただきたいと考え、現役員の留任を提案させていただく。

《第4号議案 承認》

3 その他

(琴浦町観光協会：山下会長)

- ウォーキングのイベントチラシのたたき台的なものを配らせてもらった。浦安駅と赤碕駅が今年120周年を迎えるにあたり、町の補助金を受けながら記念事業として開催するもの。これから詳細を詰めていくが、事業実施の運びとなった際には、名義後援の協力をお願いしたい。

(湯梨浜町：吉川副町長)

- サイクルトレインの実証実験のようなことを県が実施すると聞いているが、その進捗はどのような状況か。通常の列車から自転車を一緒に積み込める機能を付加したり、或いは海岸を見るような形で、座席が配列された列車を運行するとか、そういう工夫があっても面白いと思うが、意見を聞きたい。

(鳥取県地域づくり推進部：盛田部長)

- 昨年ぐらいから大山などで実施していると思う。今、インバウンドで自転車の利用が多いと聞いている。また、大山町では、通常の買い物に行く人ために、列車に自転車を乗せて、降車後は自転車で買い物に行き、また、列車に自転車を載せて帰って行くという取組もしている。また状況を調べて報告したいと思う。
- JRのあめつちが海岸の方を向いて座るという仕様になっている。JRとの協定の中で観光列車を利用した取組も進めていくこととしている。

閉会

(倉吉市：広田市長)

- それでは以上で本日の令和5年度JR線・智頭線中部地区利用促進協議会を終了したいと思うが、本日、承認いただいた事業計画並びに予算案等をしっかり取り組み、会員と協力して事業推進に引き続き努めていきたいと思うので、皆様の支援をお願いしたい。